

“あゆみ”を共に

本宮市長・上尾市長 新春対談

本宮市と埼玉県上尾市は東日本大震災の際に、上尾市が本宮市を拠点として福島県へ緊急消防援助隊を派遣したことをきっかけとし、防災に限らず、特産品販売、スポーツ、学校教育など、幅広い交流が始まり、平成25年の友好都市協定締結、平成26年のまゆみちゃんとアッピーの結婚、昨年11月の友好キャラクター「あゆみ」ちゃんの誕生などを通じて着実に協力体制を強化しています。これからのさらなる親交と発展に向けて、高松市長と上尾市の島村市長が、両市の将来像について語ります。

島村・高松市長 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。

復興支援から始まった
両市の歩み

高松 上尾市との出会いは、東日本大震災の際に緊急消防援助隊を派遣いただいたことがきっかけとなりました。この大きな災害の中でいただくことのできたご縁に、大変感謝しています。

上尾市の皆さんには、震災後の本宮市に多くの支援をいただき、本宮市民を代表して心からお礼を申し上げます。

島村 私が市の職員だった時に阪神淡路大震災が発生し、かつて交流のあった仲間が大きな被害を受けました。つらい経験でしたが、現地の皆さんと助け合い、皆で多くの試練を乗り越えました。東日本大震災が発生したとき、その経験をもとに福島県に少しでも協力したい、手助けしたいという強い思いが、本宮市とのご縁につながっています。

これまで、これから

高松 就任してわずか1カ月

で大震災を経験し、これまでは復旧、復興に追われたというのが実感です。今後は、震災前にも増して元気な本宮市を作り上げたいという強い思いがありますし、本宮は福島の中央部にあるということで「福島のへそのまち もとみや」を復興のキーワードとして元気を出していきたいと思っています。

震災からあまり明るい話題が無かった中で、昨年2月、英国のウィリアム王子にご訪問いただき、本宮市にとっても明るい話題になりました。総理、知事も揃っておいでになり、その後、本宮市は子育ての環境が整っているとの口コミが広がってきています。王子のご来市は本宮市にとって大きなインパクトがあり、とてもありがたい感謝すべきことでした。

これから、多くの自治体で人口減が大きな問題となってきますが、たくさんの方に住んでみたい、住み続けたいと思われるまちにしていきたいことが、2期目の大きな目標です。そんな中で自治体の規模は違いますが、上尾市の進んでこられた道には本宮市が目標とするべきところが多くあります。そうした目標があること



本宮市長 高松 義行

は、大変ありがたいことです。これからの本宮市は、上尾市を目標に活気ある元気な本宮を作っていきたいというのが望みです。

島村 ありがとうございます。目標と一言でいただけることはとてもうれしいですね。同時に私も身の引き締まる思いです。

私も市長に就任してからこれまでいろいろなことがありました。何かを成し遂げようとしたときに、市民の皆さんが理解を示し、協力してくださったことが何より大きかったと思います。やはり、市民の皆さんと行政が協力することが一番重要なのではないのでしょうか。私も、「笑顔きらめくほっとなまち あげお」を目指して、市民の皆さん

んが安心して暮らせるよう、日々精進していくつもりです。

競い合うのではなく、
高め合う

高松 今後、人口が減少していくのは今の日本の超高齢化社会の中では間違いないことだと思います。だからといって何もしないではいけないと思います。今何をすべきかを考えていかなければなりません。しかし、近隣自治体との人口の取り合いはあまり望ましくないと考えます。過度な競争というのは決していい形は生みません。その中で、市が持っているポテンシャルをどう発信していくのか、この発信力が大切だと思っています。いい所をどう発信し、ど

う広めていくかが行政でやらなければならぬことだと思えますし、市民の皆さんと一緒にそのいいところを育てていくことが大切だと考えています。

島村 そうですね。私も、他市町村との取り合いではなく満足して定住していただければまちづくりが必要だと思います。災害に強いまち、子育てに優しいまちとしての特徴を活かして、今後の上尾市を発展させていきたいと思いません。

「先人の想いを大事に」

高松 住みたい、住んでもらいたいまちであるには、「勤住一体型」といいますか、子育てや就労、高齢者が安心して暮らせる地域など、市の中に、生活に必要な機能が集約されていることが大切だと思います。そのためには、地場の産業を発展させながら、新しい企業が入ってくる必要があります。その点では、本宮市は東北自動車道と磐越自動車道のジャンクションが近くにあり、昔から「陸の港」として発展してきた地の利を活かせると思います。

本宮市は、昔、宿場町として栄えていましたが、当時の人口は今よりもずっと少なかったはず。しかし、人口が少なかつたからといって、活気がなかったかという点と決してそうではありませぬ。昔もしっかりと勢いもあつたし元気があつた。先を見ることが大切ですが、当時の方々がどんな想いでまちづく

くりをしてきたか先人の想いに立ち返ってみることも、地方創生や地域づくりの大きなヒントになるのではないかと思います。

島村 上尾市も、その礎は中山道の宿場町だったことにあると思います。その基本姿勢は上尾市としても大事にすべきと考えています。人口だけにとらわれず、住む人々の地域への愛着こそ、市の力になるのかもしれないですね。まさにわが意を得た思いです。

「人と人のつながり」

島村 一昨年の「あげお産業祭」でアッピーとまゆみちゃん結婚し、昨年11月5日には「あゆみ」ちゃんが誕生しました。まさに両市の友好が形を成したものだと思えます。上尾市では皆さん大変喜んでくれています。

高松 上尾市と本宮市が家族のような付き合いができて、今後の協力と発展を目指して行く象徴が「あゆみちゃんの誕生」として表現されたものだと考えています。本宮市にとっても、私にとっても大変うれしい話題でした。今後も、

深く明るく親しいお付き合いができればと思います。

島村 私も大変うれしく思っています。本宮市とは友好都市協定締結後、防災やスポーツなど多岐にわたる交流が続き、多くの子どもも参加してさらなる交流の輪が広がっています。

高松 あゆみちゃんが新たな交流の架け橋となればうれいですがね。やはり、人と人とのつながりが一番大切です。

「手を取り合い、夢をかたちに」

高松 行政には夢が必要だと思います。生きていく上でも夢は大きな力になります。財

政や復興など現実的にはいろいろな制約がありますが、どんな時でも夢に向かう姿勢が必要です。

子どもからお年寄りまで明るくなるまちを市民の皆さんと一緒に創り上げていくことが、本宮市と私の夢です。

島村 まさにその通りですね。私の夢は、皆さんの「夢をかたちに」することです。市民の皆さん、特に未来を担う子どもたちが夢を持てるようなまちづくりをしていきたいですね。これからも、頑張ります。

高松 両市が明るく発展できるように、今年も頑張っていきたいと思えます。本日はありがとうございました。



上尾市長 島村 穰

【プロフィール】昭和19年上尾市に生まれる。昭和38年4月に上尾市役所入所。平成15年12月に上尾市議会議員に当選。平成20年2月、上尾市市長に就任し現在2期目となる。趣味は読書、ソフトボール、園芸で、座右の銘は「誠心誠意」。

